

科目	都市工学演習 (Exercise of Civil Engineering)		
担当教員	都市工学科全教員		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・選択・1単位		
学習・教育目標	工学複合プログラム	A4-2(20%) A4-3(20%) A4-4(20%) C3(20%) D1(20%)	JABEE基準1(1) (a),(b),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	都市工学技術者は社会基盤施設を建設・保全するなど、その業務は社会一般との関わりが深く、専門知識のみならず幅広い教養と常識を身に付けていることが求められる。就職および進学希望の2コースに分かれ、都市工学科全教員が各々の専門分野について演習主体の授業を行い、専門科目および一般科目の基礎から応用までを総復習する。また都市工学技術者としての業務および将来の進路に対し、理解を深めることを目的としている。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】都市工学技術者として求められる一般教養・常識問題を解くことができる。		都市工学技術者として求められる一般教養・常識問題を解くことができるかは、演習問題、レポート及び試験等で評価する。
2	【A4-2】都市工学の基礎・力学系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができる。		都市工学の基礎・力学系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができるかは、演習問題、レポート及び試験等で評価する。
3	【A4-3】都市工学の建築系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができる。		都市工学の建築系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができるかは、演習問題、レポート及び試験等で評価する。
4	【A4-4】都市工学の環境・計画系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができる。		都市工学の環境・計画系科目に関する、基礎的演習問題を解くことができるかは、演習問題、レポート及び試験等で評価する。
5	【D1】都市工学に関する基本技術について説明できる。		都市工学に関する基本技術について説明できるかは、受講者へ技術的なテーマを与えてプレゼンテーション、ディスカッションなどで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	100点満点として、到達目標1で20%、到達目標2～4で60%を演習問題、レポート及び試験により評価する。そして到達目標5で残り20%をプレゼンテーション、ディスカッションの内容で評価する。		
テキスト	授業時配布のプリント		
参考書	1～3年で学習した一般科目、専門科目の教科書		
関連科目			
履修上の注意事項	この教科については、都市工学科の専門科目及び1年次からの一般教養科目の基礎から応用までを総復習するもので、高専に入学してこれまで学習してきた一般共通科目と専門科目の全ての教科が含まれている。		

